

地域をつむぐ「縁結び人」養成塾

集合研修

講義「協議の場の設置運営のための準備」

三島知斗世氏（NPO 法人ボランティアネイバーズ 調査研究部長）

2012年9月6日（木）

13：10～14：20

- ・ 平成20年度に「協働ロードマップ策定手順書」をサポートちたと一緒に作った。そのご縁で本日はお話をしたい。
- ・ 手順書はあいち NPO 交流プラザのホームページからダウンロードできる。
- ・ 協議の場の設計は、基本プログラムはあるものの、一回一回振り返りながら、進め方を練って行くことが大切。
- ・ 本日は、前半は協議の場を迎える前に、テーマ・エリア設定の方法について（プラン段階）を、後半では協議の場の運営・進行段階についてお話をしたい。
- ・ 特に後半では、協議の場の1～3回目あたりで行う課題の絞り込みのときに必要となる「率直に意見を出し合えること」、「出した意見を整理すること」にも触れて行きたい。

◇協議の場のプラン段階について

- ・ 活発な議論をして、その後実行力もあるような協議にするための設計をするためには、まずテーマの設定を行う。
- ・ 例えば、防災をテーマとしたときに、地域防災活動の活性化（施策レベル）から防災ボランティア養成講座（事業レベル）の中間あたりがちょうどよいテーマ設定となる。なぜなら、これまでにない課題解決をしていかななくてはならないから。縦割りではない人が集まるからこそ、広い視野でいい発想ができる。
- ・ 単年度ではなく、中期的なテーマを考えることが適している。一方、あまりに大きくなりすぎると、自分に引き寄せて考えにくくなってしまう。実行力という意味で、ある程度の小ささが必要となる。

◇ テーマの大きさとエリアの大きさ

- ・ 協議の場に適したエリアは、学区・町内会レベル。

- ・名古屋では小学校区で地域委員会が検討されている。住民が地域の課題を絞り、そのテーマの事業に補助金がつく仕組み。
- ・山崎川の流れる瑞穂区では、山崎川に愛着を持ってもらいたいというテーマが見えてきた。桜の名所でもあり、開発が進み新しい住民も増えてきた。地域のことに誇りを持っている方は多いが、清掃活動に関わる人は一部のみ。もっと、関わる人を増やすため、まずは生き物の観察会や桜の時期のイベントから始めている。
- ・①「全市的に取り組むもの」②「地域で取り組むもの」③「学区で取り組むもの」の3つのレベルの内、以下のテーマに適する地域レベルを考えてほしい。
- ・安全できれいな〇〇公園の活用を考える場合はどうか。⇒学区レベル。
- ・外国籍生徒の教育支援は。⇒全市的。
- ・テーマ一つにエリアが決まるのではなく、テーマの切り口で決まって来る。
- ・例えば、「若者が活躍する防災活動」を考えるとすると、全市的に考えるのが適する。専門的・先進的なモデルであったり、その地域で制度化していけたらと考える場合は、参加者の選定の視点としては、活動の対象者・担い手に加えて、情報発信するためにメディア関係者を入れたり、資材が必要になったときにホームセンター等の企業も検討するといいい。また新しいモデル化のために、社協や活動センター、行政を巻き込むことも考える。
- ・全部含まなければならないわけではないが、一旦は思い浮かべてみるようにするといいい。
- ・一方、学区で話し合う場合は、テーマとしては「防災倉庫」や「避難所運営」などが適している。日常的に機能している必要があり、災害時には災害弱者の受け入れもある。そういうときは、地域のニーズを知っている人をメンバーに入れる。
- ・例えば、高齢者。高齢者自らの参加が難しい場合は、代弁者となる人でもいい。また、アレルギー支援の視点など特別な配慮が必要な人の意見など。それぞれ役割を持っている選定がいい。

#### <グループワーク>

- ・ それでは、手元にあるラフスケッチに書いたことを共有してほしい。
- ① 3人に分かれ、自己紹介をする。
- ② まず一人が3分で考えてきたことやアイデアを話す。
- ③ その後、1分間に2人が感想をフィードバックする。
- ④ 同様に残りの2人も話をし、感想を言い合う。

## **グループワークから出た質問**

### ○行政の方を参加者として呼ぶときはどうなるか。

- ・ 「行政の場合、まずは担当者がその場に参加することが多いだろう。意思決定者はその上司になるが、下から上に上げて行くのが本来のプロセスとなる。」(愛知県の田中さんより)
- ・ 組織の中のどの方に、どの場面で出てもらおうのかを考えるとよい。
- ・ 参加者の呼びかけ方は、その方に来てほしいと思っても、呼びかけ方が分からない場合もある。そのときは、誰と一緒にいくと参加してもらいやすいか考え根回しをしておくと呼びやすくなる。

### ○サポートちたの事例紹介(岡本)

- ・ 「昨年度の、愛知県医療福祉計画課の地域の多世代交流事業において、協議の場を設けた。そこへ、知多メディアス(ケーブルテレビ)に参加してもらった。」
- ・ 「一参加者としての意見をもらいつつ、協議の様子をテレビで流してもらった。地域の多くの方に関心を持ってもらいたいと思い、ホームページに記録をアップしながら、アイデアを寄せてもらうための仕掛けをした。そこは大きな成果があった。」

### ○協議の場の準備・進行について

- ・ まずは、率直な意見がでやすいように。
- ・ また出た意見をどう整理するか。
- ・ 意見を出しやすくするためには、相互理解と、現状と課題を出し合うことがポイントとなる。
- ・ 会議の回数は限られているので、短く紹介してもらうために工夫する。相互理解が終わった後、現状と課題を出し合う段階となる。

### ○率直に意見が出し合える工夫

- ・ 大御所が延々と話す場合がある。そのときは、みんなに発言の機会を与えるようにする。

-①書いて、話す。

-②〇〇順から、話して行く。(例：年齢の高い人から、若い人から)

-③グループサイズを工夫する。

⇒人数を使い分けるといい。

(例：現状と課題を出すときに、10人の口の字だと難しい。

そういう場合は、例えばお隣の人と1分くらい話してみる。)

### ○肯定感を持ちつつ、課題に向き合う

- ・ いろいろな立場の人が居ること。それぞれの人がやっていることとや、課題をみんなに見える形で議論すること。
- ・ やれないことだけでなく、やれていることも見えるようにする。
- ・ ホワイトボードなどを活用して情報を整理すると、みんなが発言しやすくなる。

### ○話し合いのルールをつくる。

- ・ 例：他人事ではなく、自分事として考えること。お互いの立場・価値観を尊重し、学び合う。等。
- ・ ルールを作って初回に作って、壁に貼っておくといい。

### ○多様な意見が出たらどうするか。

- ・ あれやこれやの意見が出たら、それをバラバラに捉えるのではなく、同じ土台でつながるように考えて行くことは大切な視点。
- ・ 今後協議の場を行うとき、多様な課題が出るだろう。
- ・ 例えば孤独死防止というテーマのとき、「行政の配食サービスは土日休みだからサービスの見直しが必要」「孤立を防ぐ人間関係づくりが必要」などが出た。それを単発ですべてやるのは予算的にも時間的にも無理。
- ・ 初回の会議の中で出た意見を書き出して記録を作り、宿題を出した。
- ・ 宿題：「いろいろ課題はあるが、課題を生み出している問題の根本は何かを考えてくる。」そこを第2回に話し合いたいとした。
- ・ そのときに出てきたのは、①地域社会が崩壊している②サービスの担い手の相互理解・協力が不足している。という2点だった。よって、その問題を裏返したときに、地域のビジョンが見えて来た。

### ○意見がたくさん出てきたときに、どう整理をするか。

- ・ 工夫の仕方はいろいろある。
- ・ 例えば、意見の内容を大まかに分けて、シールを使って、一人一人が投票する。そうすると、ニーズの高低を見ることができる。
- ・ 他にも、参加者は何か一つ調べてくる宿題を課す。検討や議論を深めて行くために、ちょっとだけ調べて来てもらう。

○地域の縁結び人として、第2回以降どう設計するか。

- ・ 初回は多様な人が集まり、緩やかな発想をする。そこから、5回目までに実行性を持つところに行くまで、参加者のやる気を引き出すことが必要。
- ・ 実行性を深めるために、空白部分の議論をしていないかチェックする。  
(地域には多様な方が住んでいる。属性を分け、出た意見の分析を試みる。)
- ・ 相乗効果を狙うために、今まで若者のための居場所、高齢者のためのデイサービス、それぞれの重なり合う部分について重点的に議論する。
- ・ 実行性を見極める。そのために、マトリクスで整理する。
- ・ まず始めの一步をどこから誰がやるのか。NPOの人が得意だと思う。スモールサクセスを重ねて行くこと。社会の理解を拡げて行く。時間軸を意識しながら協議の進め方を考える。
- ・ 出しっ放しの意見ではなく、みんなで検討するに値するように、事務局がサポートしていけるといい。